

雲仙市文化財調査報告書 第15集
Kuriyama Shimokuriyama
栗山遺跡・下栗山遺跡

—八斗木地区県営基盤整備事業に伴う発掘調査報告—

2017

長崎県雲仙市教育委員会

発行にあたって

雲仙市は、雲仙普賢岳の麓、豊かな大地と、光輝く海に囲まれた、自然と文化のあふれるふるさとです。この報告書は平成24年度～平成26年度に実施した、農業競争力強化基盤整備事業八斗木地区に伴う栗山遺跡・下栗山遺跡発掘調査の記録です。

栗山遺跡・下栗山遺跡は、島原半島の北側、雲仙普賢岳より続く丘陵上に所在し、遺跡東側を流れる土黒川の対岸には、旧石器時代～縄文時代の大規模遺跡である百花台遺跡群があります。

今回の調査では、旧石器時代～中世にかけての遺構・遺物が確認されました。特に旧石器時代の石器群が多く見つかっており、古代人が黒曜石を打ち割って石器を作っていた様子が、石器の接合関係から見て取れます。今報告では、出土石器の科学的な分析作業を行い、石器石材の原産地が多く判明しました。その多くは、佐賀県嬉野市や伊万里市、長崎県西彼杵半島の黒曜石でしたが、遠くは、鹿児島県伊佐市から運ばれてきたものもあり、当時の人々の生き生きと生活する姿が想像できます。

この調査報告書が文化財の保護・保存のために多くの方に活用され、埋蔵文化財の保護に対する关心と理解をいただく資料になれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、ご指導、ご協力いただきました、地元自治会の皆様、工事関係者の皆様、大学・博物館関係の諸先生方、ならびに長崎県教育委員会学芸文化課、長崎県埋蔵文化財センターの皆様に衷心から感謝申し上げ、発行のことばといたします。

平成29年3月24日

雲仙市教育委員会

教育長 山野義一

例

1. 本報告は平成 24 年度～平成 26 年度に実施した八斗木地区県営圃場整備事業に伴う長崎県雲仙市国見町に所在する栗山遺跡・下栗山遺跡の緊急発掘調査の報告である。

2. 調査は雲仙市教育委員会が担当した。
発掘調査は下記の期間実施した。

平成 24 年度

2012 年 4 月 25 日～2013 年 3 月 29 日 970 m²
平成 25 年度

2013 年 4 月 15 日～2014 年 3 月 31 日 2,700 m²
平成 26 年度

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 4,500 m²

3. 調査体制は次のとおりである。

調査主体 雲仙市教育委員会

教育長 塩田 貞佑（～平成 25 年 2 月）

教育長 山野 義一（平成 25 年 3 月～）

教育次長 山野 義一（～平成 25 年 2 月）

教育次長 岸川 孝（平成 25 年 4 月～）

教育次長 山本 松一（平成 26 年 4 月～）

生涯学習課長 村山 岩穂（～平成 25 年 3 月）

生涯学習課長 清水 清文（～平成 26 年 3 月）

生涯学習課長 稲本 克彦（～平成 27 年 3 月）

生涯学習課長 松橋 秀明（平成 27 年 4 月～）

文化財班班長 田中 卓郎（～平成 25 年 3 月）

文化財班班長 柴崎 孝光（平成 25 年 4 月～）

文化財班主任 富永 康史（～平成 26 年 3 月） 文化財班主任

横尾 幸治（平成 26 年 4 月～）

文化財班主任 林田 英明（平成 28 年 4 月～）

調査担当

文化財班参事補 辻田 直人

文化財班主任 村子 晴奈（平成 28 年 4 月～）

文化財調査員

村子 晴奈（～平成 28 年 3 月）

竹田 将仁（～平成 25 年 3 月）

青木 肇太郎（平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月）

堀井 香七（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

林田 好子（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

松崎 光伸（平成 27 年 4 月～）

竹本 成美（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

今西 亮太（平成 28 年 4 月～）

文化財整理員

早稲田 一美・柳原 亜矢子・本田 圭香（～平成 28 年 3 月）・三浦 幸菜（平成 28 年 4 月～）・吉田 光孝（平成 28 年 10 月～）

言

4. 現地での遺構・遺物の実測は林 繁美・福田 次郎・竹田 青木・堀井・林田・辻田・村子が行い、遺物の実測は竹田・青木・堀井・林田・松崎・竹本・早稲田・柳原・本田・三浦・辻田・村子が行い、一部は埋蔵文化財サポートシステム長崎支店及び九州文化財研究所長崎営業所に委託した。トレースは早稲田が行った。また、図版の編集・作成は早稲田・柳原・本田・村子・辻田が行い、写真は現地調査を竹田・青木・堀井・林田・辻田・村子が、遺物写真是早稲田・柳原・本田・辻田・村子が行った。

5. 石器の接合作業は本田・柳原が行い、接合石器実測の一部は埋蔵文化財サポートシステム長崎支店及び九州文化財研究所長崎営業所に委託した。また、接合石器のうち一部の資料は、長崎県埋蔵文化財センターにて三次元計測を行い、あわせて 3D プリントにてレプリカを作成した。

6. 第 4 章自然化学分析については、第 3 節Ⅲ及び第 4 節については㈱古環境研究所に、それ以外は㈱火山考古学研究所（No.000571・000645）に委託した。第 5 節については、長崎県埋蔵文化財センターにおいて辻田が分析した結果を報告している。

7. 空中写真撮影業務は㈱スカイサーべ九州に委託した。

8. 木遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市歴史資料館国見展示館で保管している。

9. 本書で用いた方位はすべて真北であり、国土標記は世界測地系による。

10. 現地調査および本書の刊行にあたって多くの方々からご助言いただいた。記して謝意を表します。下川達彌（活水女子大学）、早田勉（㈱火山考古学研究所）、萩原博文、川道 寛・片多雅樹・今西亮太（長崎県埋蔵文化財センター）、杉原敏之（九州歴史資料館）、九州旧石器文化研究会、福岡旧石器文化研究会、長崎県教育委員会（順不同）

11. 本書の執筆・編集は辻田直人・村子晴奈による。

目 次

卷頭図版

発行にあたって

例 言

本文目次

挿図目次

表 目 次

図版目次

第1章 調査の経緯 ······ ······ ······ ······ ······ 1p

 第1節 発掘調査にいたる経緯

 第2節 発掘調査の方法及び経過

 第3節 遺跡の地理的・地形的環境

第2章 基本土層 ······ ······ ······ ······ ······ 5p

 第1節 百花台遺跡群との対比

第3章 検出された遺構と遺物 ······ ······ ······ ······ 8p

 第1節 旧石器時代の遺物

 第2節 縄文時代の遺構・遺物

 第3節 おとし穴状遺構

 第4節 堀立柱建物跡

第4章 自然科学分析 ······ ······ ······ ······ 99p

 第1節 火山灰分析

 第2節 植物珪酸体分析

 第3節 放射性炭素年代測定結果

 第4節 炭素・窒素安定同位体比分析（植生分析）

 第5節 蛍光X線分析による石器石材産地同定

第5章 まとめ ······ ······ ······ ······ 170p

 第1節 総括

 第2節 まとめ

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図(1/20,000)	
第2図	遺跡周辺地形(1/10,000)	2
第3図	調査区配置図(1/4,000)	4
第4図	旧石器時代遺物出土状況(1/2000)	6
第5図	栗山遺跡・下栗山遺跡と百花台遺跡群・土黒川流域遺跡群との対比	7
第6図	12区・13区・14区遺物出土状況①(1/150)	8
第7図	12区・13区・14区遺物出土状況②(1/150)	9
第8図	12区・13区出土遺物(2/3)	10
第9図	9区・26区遺物出土状況①(1/200)	12
第10図	9区・26区遺物出土状況②-1(1/100)	13
第11図	9区・26区遺物出土状況②-2(1/100)	14
第12図	9区・26区遺物出土状況②-3(1/100)	15
第13図	9区・26区遺物出土状況③-1(1/100)	17
第14図	9区・26区遺物出土状況③-2(1/100)	18
第15図	9区・26区遺物出土状況③-3(1/100)	19
第16図	9区・11区・25区・26区出土遺物①(2/3)	20
第17図	9区・11区・25区・26区出土遺物②(2/3)	23
第18図	9区・11区・25区・26区出土遺物③(2/3)	25
第19図	9区・11区・25区・26区出土遺物④接合資料①(2/3)	27
第20図	9区・11区・25区・26区出土遺物⑤接合資料①(2/3)	28
第21図	9区・11区・25区・26区出土遺物⑥接合資料②(2/3)	32
第22図	9区・11区・25区・26区出土遺物⑦接合資料③(2/3)	34
第23図	9区・11区・25区・26区出土遺物⑧接合資料④(2/3)	35
第24図	9区・11区・25区・26区出土遺物⑨接合資料⑤(2/3)	36
第25図	9区・11区・25区・26区出土遺物⑩(2/3)	37
第26図	5区・27区遺物出土状況①(1/100)	39
第27図	5区・27区遺物出土状況②(1/100)	40
第28図	5区・27区出土遺物①(2/3)	41
第29図	5区・27区出土遺物②(2/3)	43
第30図	5区・27区出土遺物③(2/3)	44
第31図	5区・27区出土遺物④接合資料⑥(2/3)	46
第32図	5区・27区出土遺物⑤接合資料⑥(2/3)	47
第33図	5区・27区出土遺物⑥接合資料⑥(2/3)	48
第34図	5区・27区出土遺物⑦接合資料⑥(2/3)	49
第35図	5区・27区出土遺物⑧接合資料⑥(2/3)	50
第36図	16区・17区遺物出土状況①(1/200)	54
第37図	16区・17区遺物出土状況②(1/150)	55
第38図	16区・17区出土遺物(2/3)	56
第39図	29区・30区・32区遺物出土状況①(1/500)	58
第40図	29区・30区・32区遺物出土状況②-1(1/250)	60
第41図	29区・30区・32区遺物出土状況②-2(1/250)	61
第42図	29区・30区・32区出土遺物①(2/3)	62
第43図	29区・30区・32区出土遺物②(2/3)	63

第44図	29区・30区・32区出土遺物③(2/3)	64
第45図	2区遺物出土状況①(1/100)	66
第46図	2区遺物出土状況②(1/100)	67
第47図	3区遺物出土状況①(1/100)	68
第48図	3区遺物出土状況②(1/100)	69
第49図	2区・3区・4区出土遺物(2/3)	70
第50図	28区出土遺物(2/3)	71
第51図	29区SK-39上坑配置図(1/120)	78
第52図	29区SK-39土坑検出状況(1/20)	78
第53図	29区SK-39出土遺物(1/3)	79
第54図	3区SD-3検出状況(1/120)・断面図(1/80)	80
第55図	12区～22区出土土器①(繩文時代晩期～弥生時代早期)(1/3)	81
第56図	12区～22区出土土器②(繩文時代晩期～弥生時代早期)(1/3)	83
第57図	おとし穴状遺構配置図(1/3,000)	87
第58図	3区SK-3おとし穴状遺構検出状況(1/30)	88
第59図	13区SK-17おとし穴状遺構配置図(1/400)・検出状況(1/30)	89
第60図	25・27・28区おとし穴状遺構配置図(1/400)・検出状況(1/60)	90
第61図	25区SK-20おとし穴状遺構検出状況(1/30)	91
第62図	25区SK-21おとし穴状遺構検出状況(1/30)	92
第63図	27区SK-29おとし穴状遺構検出状況(1/30)	93
第64図	28区SK-35おとし穴状遺構検出状況(1/30)	94
第65図	28区SK-36おとし穴状遺構検出状況(1/30)	94
第66図	28区SK-38おとし穴状遺構検出状況(1/30)	95
第67図	14・15区掘立柱建物跡配置図(1/200)・検出状況(1/40)	96
第68図	栗山遺跡・下栗山遺跡出土土器総年図(1/6・1/3)	170

表 目 次

第1表	旧石器時代遺物計測表(実測図掲載遺物) ······	72~77
第2表	出土土器觀察表 ······	85~86
第3表	おとし穴状遺構計測表 ······	95
第4表	旧石器時代遺物計測表(出土遺物全体) ······	134~169

図 版 目 次

中表紙図版(カラー)

卷頭図版①(カラー) 雪仙普賢岳山頂より有明海を望む。

卷頭図版②(カラー) 粟山遺跡調査風景(25区~32区) 粟山遺跡 26区調査風景

参考図版③(カラー) 粟山遺跡 26 区出土石器(接合資料)(ほぼ 2/3)

卷頭図版④(カラー) 栗山遺跡 27 区出土石器(接合資料)(ほぼ 2/3)

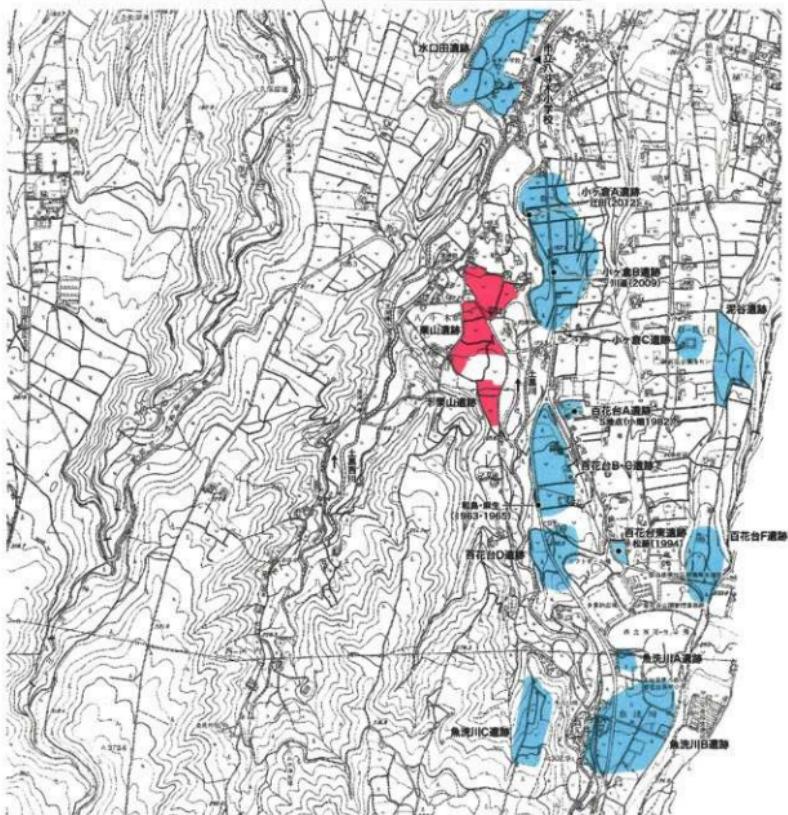
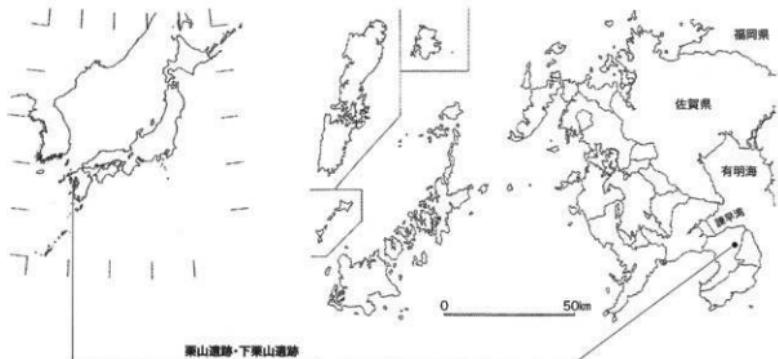
卷頭図版⑤(カラー) 粟山遺跡27区出土石器(接合資料)(ほほ2/3)

88 頁 13 区 SK-17 おとし穴状遺構土層堆積状況(東側)

97 頁 14・15 区掘立柱建物跡完掘状況 14・15 区掘立柱建物跡 Pit46 半裁状況

図版 1	28 区 SK-38 完掘
遺跡上空写真(昭和 35 年国土地理院)	
図版 2	図版 7
遺跡近景(北より)	調査前の風景
遺跡遠景(南より)	調査前の風景(八斗木ねぎ)
下栗山遺跡 1 区～4 区	事前の草刈
栗山遺跡 5 区～11 区	調査区の設定
栗山遺跡 12 区～22 区	2 区調査風景
下栗山遺跡 29 区～32 区	2 区土層堆積
	3 区調査風景
	3 区上層堆積
図版 3	図版 8
基盤整備の進む遺跡	9 区調査風景
基盤整備の進む遺跡と雲仙普賢岳	9 区上層堆積
栗山地区 26 区遺物検出状況	12 区調査風景
	12 区 VI 層出土石器
図版 4	12 区 VII 層出土石器
29 区 SK-39 検出	12 区 VII 層出土石器
29 区 SK-39 掘り下げ	12 区火山灰分析
29 区 SK-39 出土遺物	12 区火山灰分析
29 区 SK-39 完掘	
29 区 SK-39 調査風景	
3 区 SD-3 完掘	図版 9
3 区 SD-3 南壁土層	12 区土層堆積
3 区 SD-3 調査風景	12 区完掘状況
	12 区完掘状況
図版 5	12 区完掘状況
3 区 SK-3 検出	13 区・14 区調査風景
3 区 SK-3 断面	14 区土層検出
3 区 SK-17 掘り下げ	16 区・17 区調査風景
3 区 SK-17 調査風景	16 区・17 区調査風景
3 区 SK-20 半裁	
3 区 SK-20 スライス④-④'	図版 10
3 区 SK-21 半裁	16 区・17 区調査風景
3 区 SK-21 スライス③-③'	16 区・17 区調査風景
	16 区・17 区調査風景
図版 6	16 区・17 区 VI 層出土石器
27 区 SK-29 半裁	16 区・17 区 VI 層出土石器
27 区 SK-29 完掘	18 区晚期土器出土状況
28 区 SK-35 半裁	25 区調査風景
28 区 SK-35 完掘	26 区調査風景
28 区 SK-36 半裁	
28 区 SK-36 完掘	
28 区 SK-38 半裁	図版 11
	26 区調査風景

- 26 区調査風景
26 区調査風景
26 区調査風景
26 区石器出土状況
26 区石器出土状況
26 区石器出土状況
26 区石器出土状況
26 区石器出土状況
図版 12
26 区完掘
26 区完掘
26 区土層実測風景
27 区調査風景
27 区調査風景
27 区調査風景
27 区石器集中部分
27 区石器集中部分
図版 13
27 区VI層出土石器
27 区完掘
27 区石器集中部分の礫
27 区石器集中部分の礫
27 区土層堆積
28 区調査風景
29 区・30 区調査風景
29 区調査風景
図版 14
29 区調査風景
29 区・30 区調査風景
29 区調査風景
29 区石器出土状況
29 区VI層出土石器
32 区調査風景
32 区土層堆積
暑さ対策の遮光ネット
図版 15
出土遺物写真 (第 53 図・第 55 図 2~17)
図版 16
出土遺物写真 (第 55 図 18~23・第 56 図)
図版 17
出土遺物写真 (第 8 図・第 16 図)
図版 18
出土遺物写真 (第 17 図・第 18 図)
図版 19
出土遺物写真 (第 19 図・第 20 図)
図版 20
出土遺物写真 (第 21 図)
図版 21
出土遺物写真 (第 22 図・第 23 図)
図版 22
出土遺物写真 (第 24 図・第 25 図)
図版 23
出土遺物写真 (第 28 図・第 29 図 74~78)
図版 24
出土遺物写真 (第 29 図 79・第 30 図)
図版 25
出土遺物写真 (第 31 図・第 32 図)
図版 26
出土遺物写真 (第 33 図・第 34 図 88~94)
図版 27
出土遺物写真 (第 34 図 88~9~6・第 35 図)
図版 28
出土遺物写真 (第 38 図・第 42 図)
図版 29
出土遺物写真 (第 43 図・第 44 図)
図版 30
出土遺物写真 (第 49 図・第 50 図)



第1図 遺跡位置図 (1/20,000)

- 「腰岳牟田系黒曜石：略号（腰）」伊万里市腰岳産や松浦牟田産の黒曜石である。報告のなかでは、礫面の状況から牟田産と判断できるものは略号（牟）としている。
- 「椎葉川産黒曜石：略号（椎）」佐賀県嬉野市椎葉川産出の黒曜石。
- 「淀姫系黒曜石：略号（淀）」松岳流紋岩を起源とする。牛の岳や土器田も含まれる。
- 「針尾系黒曜石：略号（針）」佐世保市針尾島の針尾無線等や針尾中町付近から産出される。
- 「亀岳産黒曜石：略号（亀）」西彼杵半島の亀浦流紋岩・宮浦流紋岩起源。
- 「亀岳系黒曜石A群：略号（亀A）」未周知のグループ。目視では亀岳産に良く似ている。判別図①のA群。
- 「亀岳系黒曜石B群：略号（亀B）」未周知のグループ。分析当初、Sr分率の判別図で、亀A近くにプロットされたためそう呼んだが、石材的にはややざらつきがあり、本来は多久の安山岩に近いと思われる。判別図①のB群。
- 「川棚大崎産黒曜石：略号（川）」長崎県川棚町の大崎半島の海岸に分布。
- 「日東産黒曜石：略号（日）」鹿児島県伊佐市日東遺跡周辺に分布する気泡が多く入る黒曜石。
- 「神代海岸（A s o 4）」阿蘇4火碎流堆積物のなかの亜角礫の黒曜石小礫。分析当初、雲仙市国見町神代海岸で採取した資料を使用したため神代海岸としているが、後の分析で、他の地域の阿蘇4資料と分析が一致している。
- 「多久安山岩：略号（多）」佐賀県多久地方の老松山・岡本岡地域の安山岩。

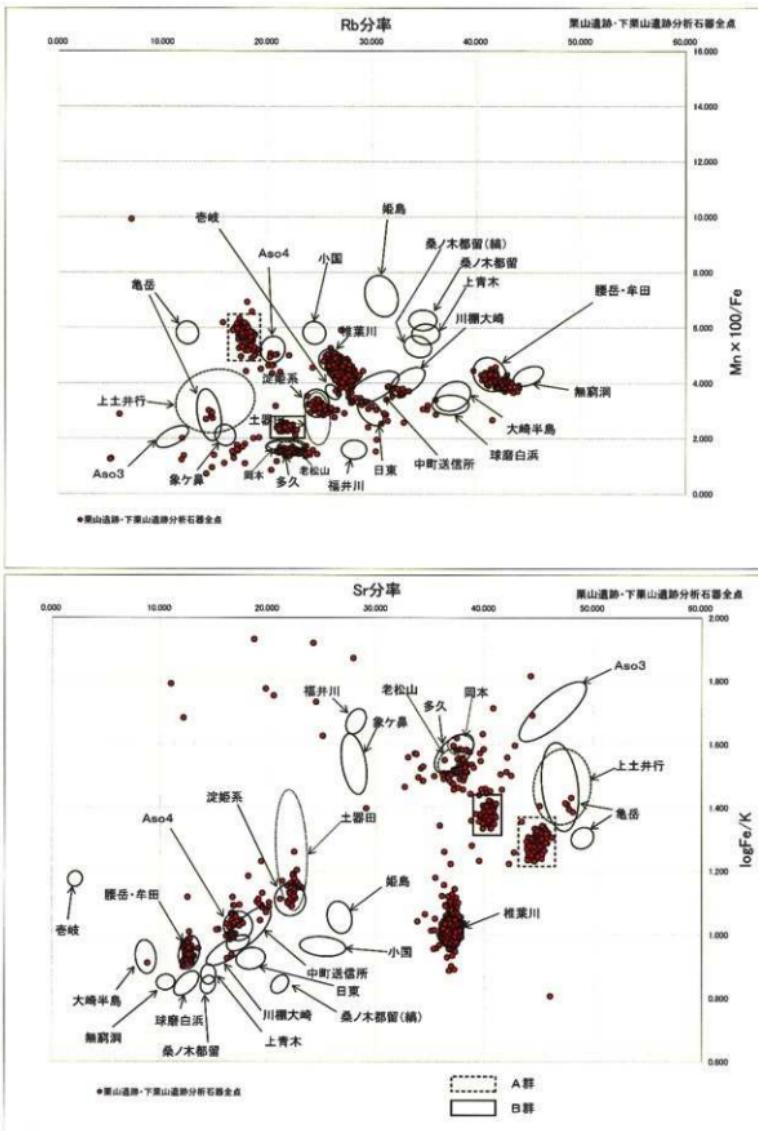
分析の結果、各地点でまとまりのある成果が見られる。9区・25区・26区では、877点中805点が椎葉川産黒曜石で閉められており、その割合は92%を占めている。また、27区・28区では、188点中159点が亀岳系黒曜石A群で占められており、その割合は85%を閉める。いずれの地点も、主体となる石材以外の石器の剥片剥離はほとんど行われておらず、それらは搬入されたものと考えられる。どちらもAT降灰直後の石器群と見られ、縦長剥片剥離を主体とする石器群である。16区・17区では椎葉川産黒曜石・腰岳牟田系黒曜石・亀岳系黒曜石B群の3種類の石材が同じようにナイフ形石器の石材として使用されており、前述の2地区とは石材の利用が異なっている。30区から検出された角錐状石器は、唯一の日東産黒曜石製の石器である。3区から検出された川棚大崎産黒曜石は一部特徴的な礫面が見られるものの、剥片の状態では、腰岳牟田系黒曜石とは識別し難い。

出土資料の多くの分析することで、より多くの情報・調査成果を引き出すことが可能になると思われる。分析作業は非破壊で、1点の分析時間も2分程度であり、1日で100点以上の分析も可能であった。比較的簡易に行える作業であり、旧石器時代のみならず、様々な時代の調査・研究の大きな武器になると考えられる。

(注1) 島原半島は、雲仙普賢岳の火山活動により噴出される角閃石安山岩が主な岩石であり、縄文時代の石皿や磨石などとしての利用は見られる。また、阿蘇4火碎流堆積物に伴う1~2cmほどの亜角礫素材の黒曜石が第Ⅳ層中に含まれているが、量は少ない。細石器文化期後半期には細石核として使用されている。今回の調査でも出土資料として取上げられており、分析の判別図にもプロットされている。しかしながらそのほとんどは、原石の状態のもので、石器石材としての利用は見られない。

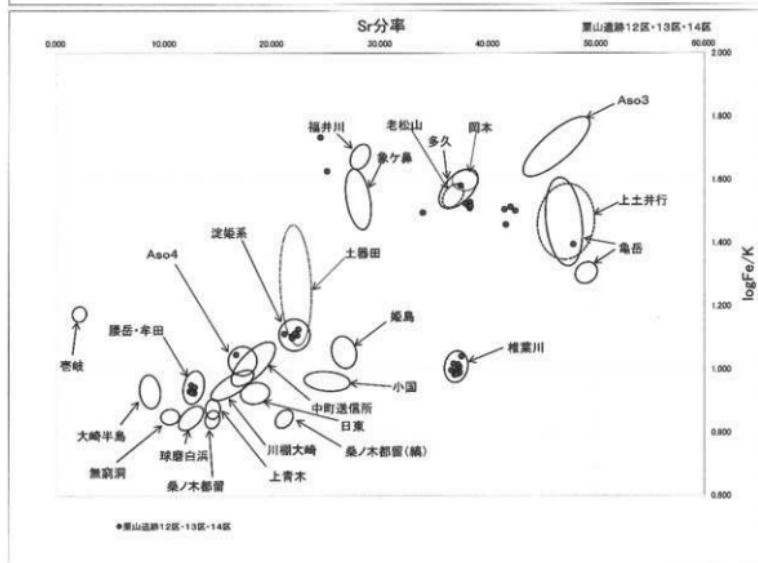
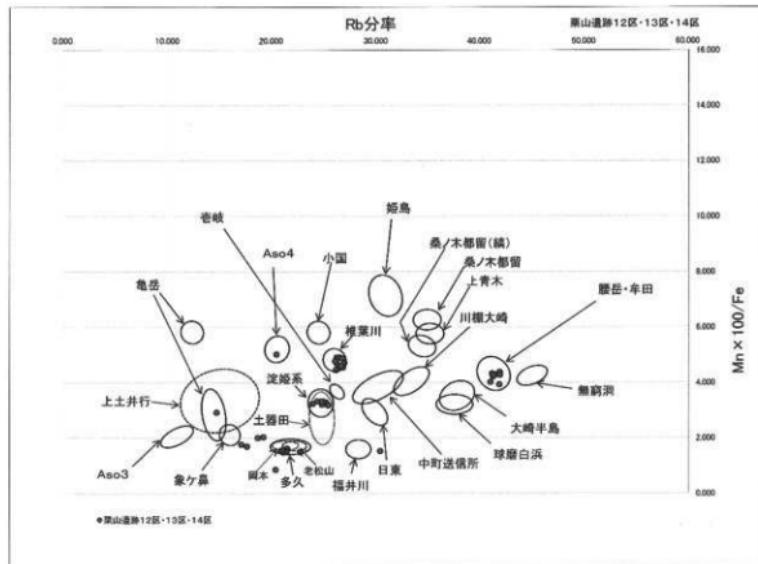
【参考文献】

- 川道 寛・古澤義久 2015『原の辻遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第14集 長崎県教育委員会
片多雅樹 2015『判別図法を用いた黒曜石の産地推定～原産地データの蓄積～』『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要』



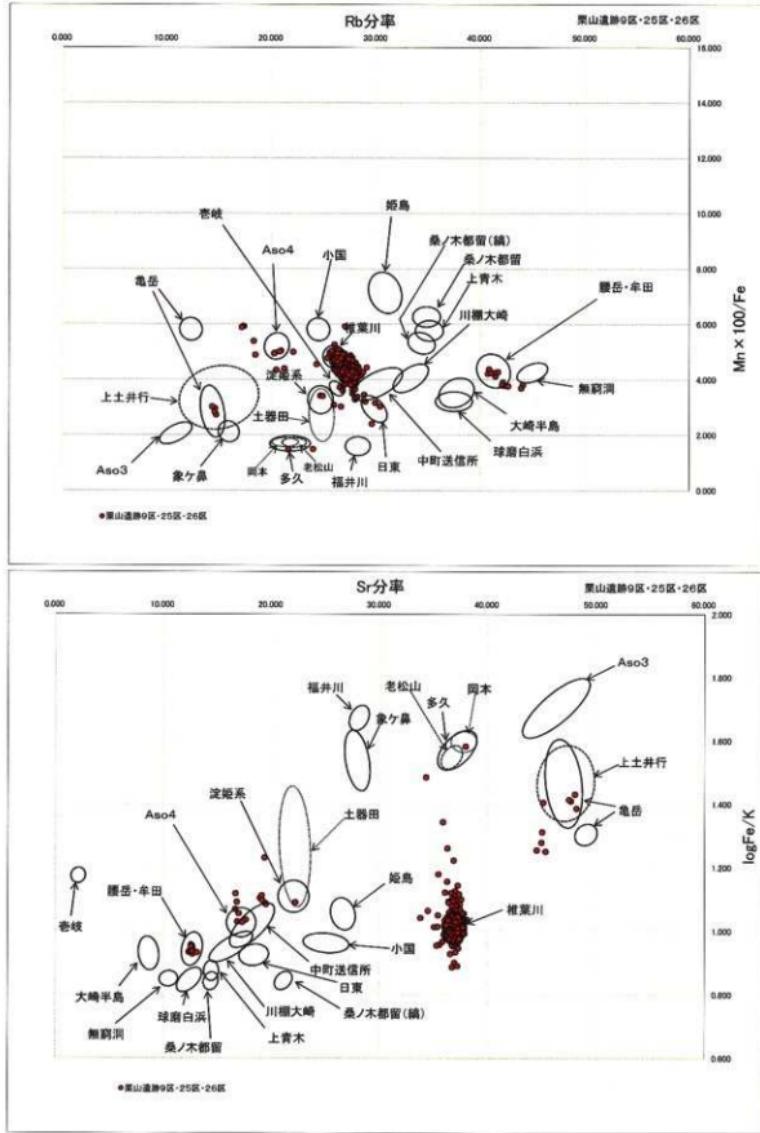
石材判別図① 栗山遺跡・下栗山遺跡分析石器全点

(平成 28 年 8 月 24 日時点)



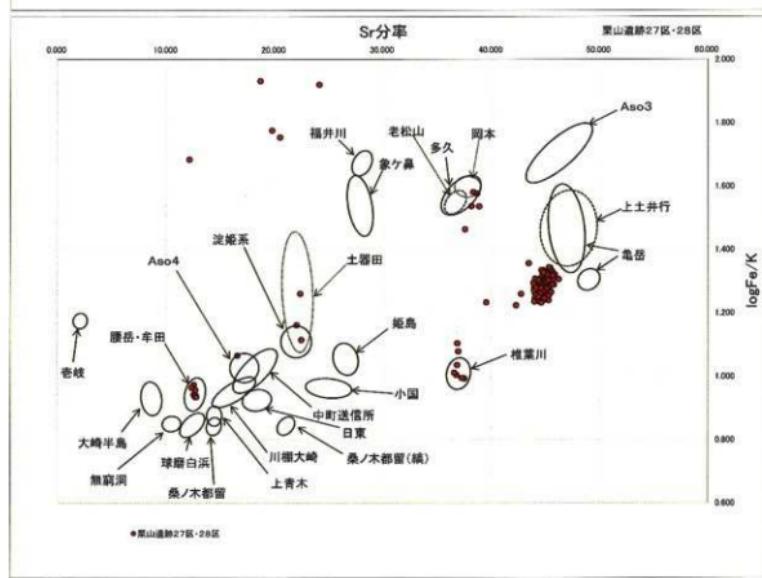
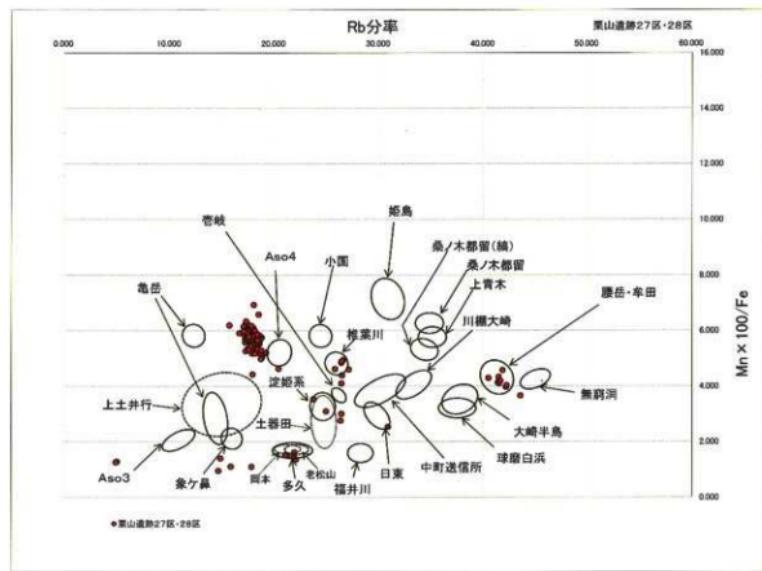
石材判別図② 栗山遺跡12区・13区・14区 分析石器

(平成28年8月24日時点)



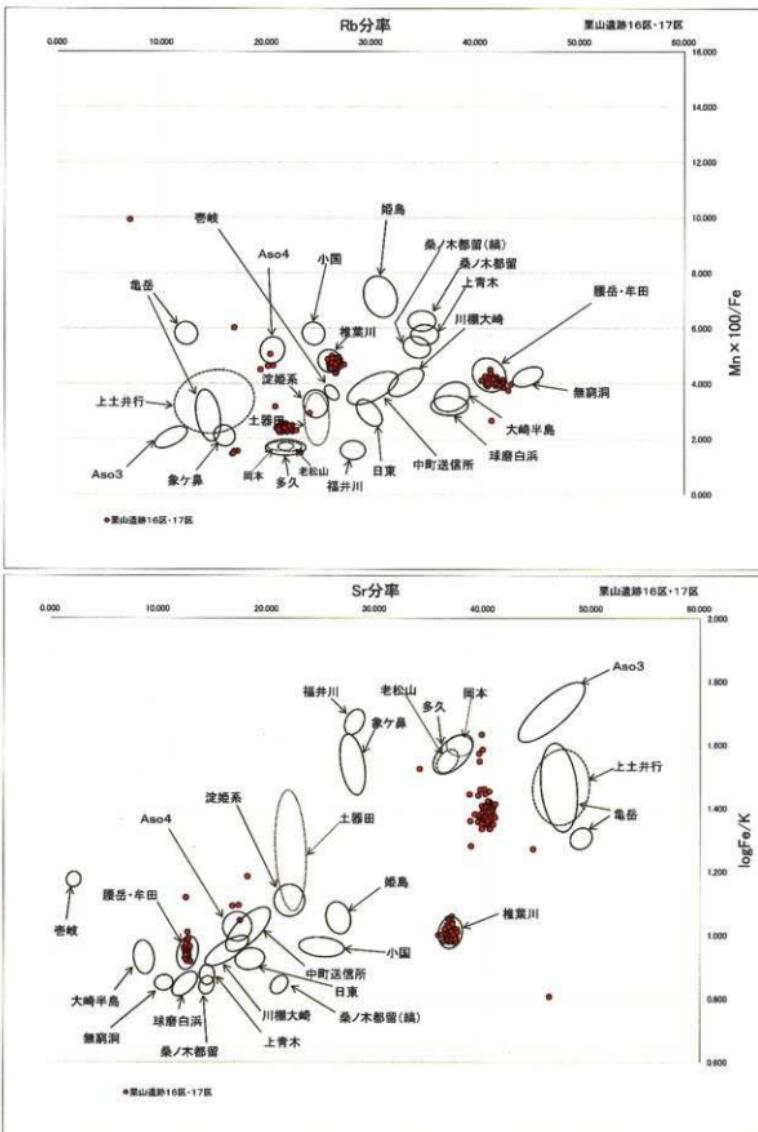
石材判別図③ 栗山遺跡 9区・25区・26区 分析石器

(平成 28 年 8 月 24 日時点)



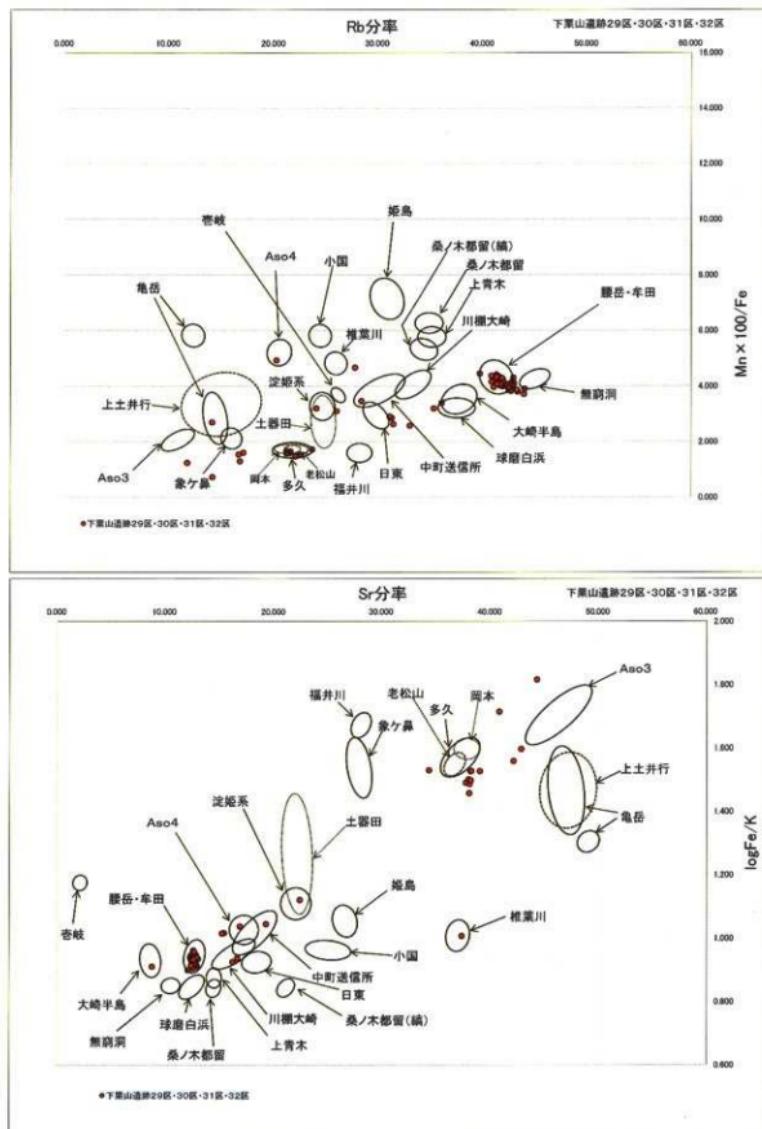
石材判別図④ 栗山遺跡 27区・28区 分析石器

(平成 28 年 8 月 24 日時点)



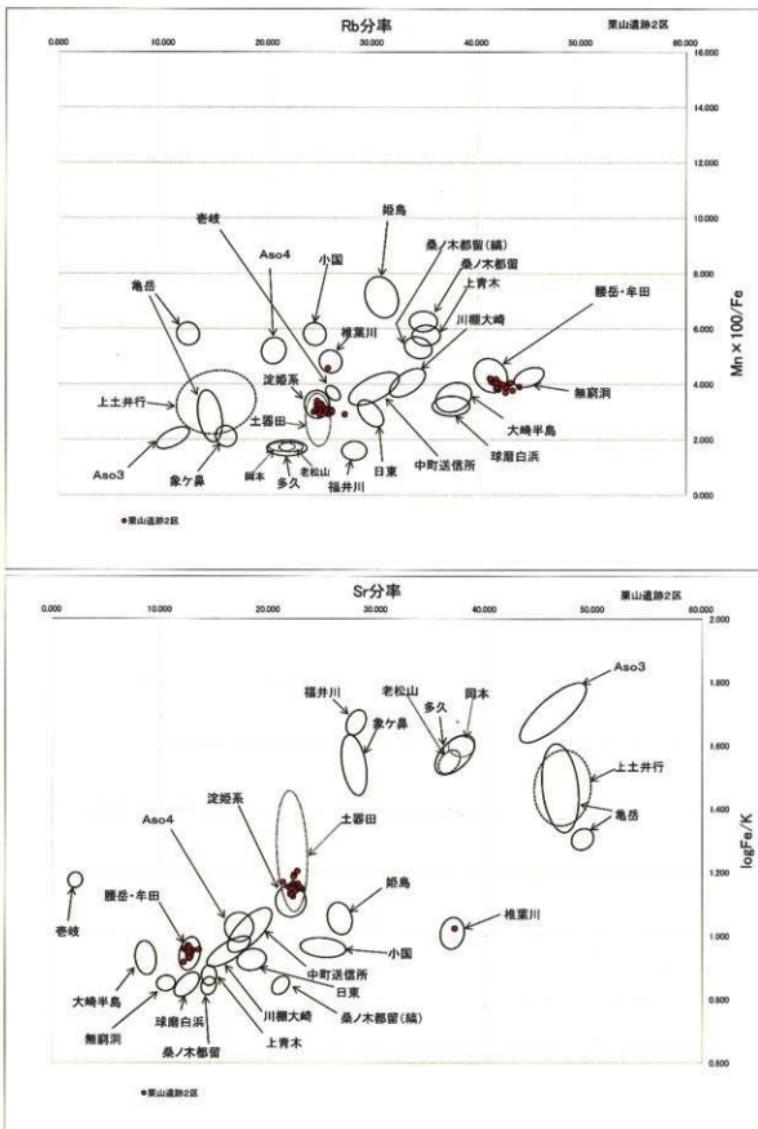
石材判別図⑤ 栗山遺跡 16区・17区 分析石器

(平成28年8月24日時点)



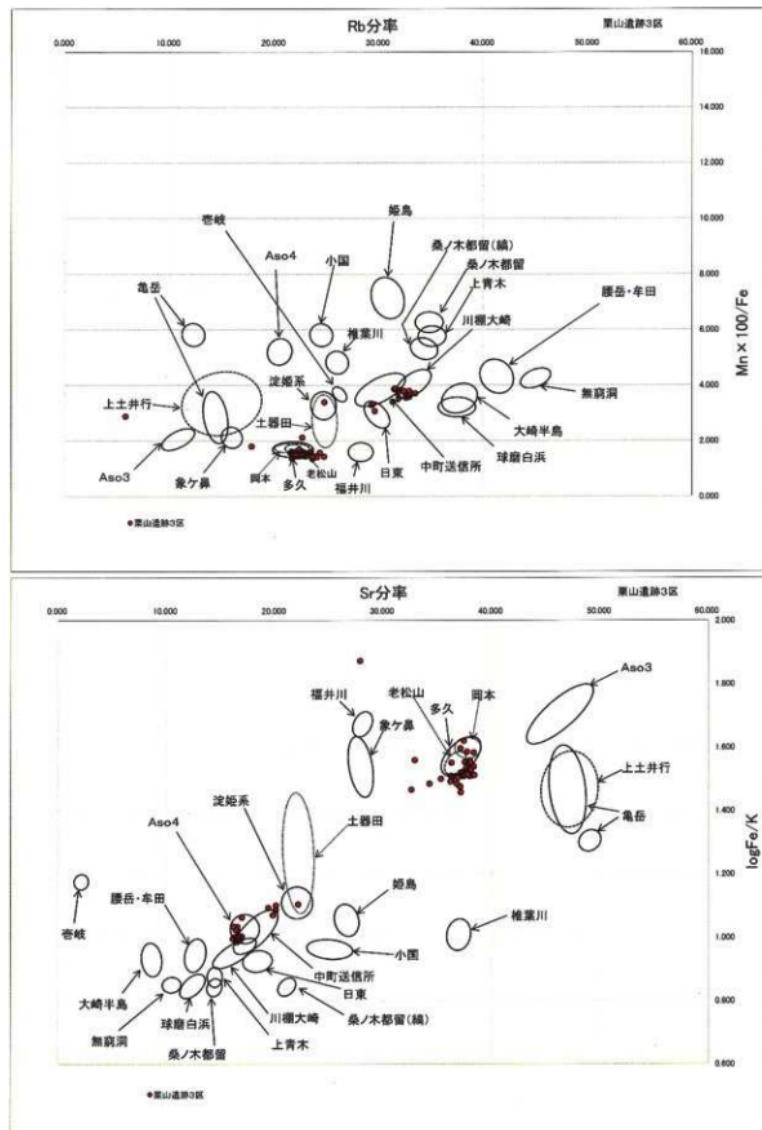
石材判別図⑥ 栗山遺跡 29区・30区・31区・32区 分析石器

(平成28年8月24日時点)



石材判別図⑦ 下栗山遺跡2区 分析石器

(平成28年8月24日時点)



石材判別図⑧ 下栗山遺跡3区 分析石器

(平成28年8月24日時点)

第4表 旧石器時代遺物計測表（出土遺物全体）

番号	林種	区	遺伝子	樹種	分析による石臼判別	推奨	備考
134		2	Vb	スクリーバー	豊臣山田系磨石	スクリーバーに転用	
135		2	V-002	Va	使用後のあら片岩	削尾山系磨石	削尾利潤
2	V-003	Vb	スクリーバー	加工後のあら片岩	削尾山系磨石	削尾利潤	
2	V-004	Va	削尾削片	定義山系磨石	削尾山系磨石		
2	V-005	Va	削尾削片	豊臣山田系磨石	石臼などの調整		
2	V-006	Vb	小野石刃	豊臣山田系磨石	合む石器の倒錐調整		
130		2	V-008	Vb	小野石刃	豊臣山田系磨石	3と接合
2	V-007	Va	削片	定義山系磨石			
2	V-008	Va	小野石刃	豊臣山田系磨石			
2	V-009	Vb	削片	豊臣山田系磨石			
2	V-010	Va	削片	豊臣山田系磨石			
2	V-011	Va	チップ	豊臣山田系磨石			
2	V-012	Vb	チップ	豊臣山田系磨石			
2	V-013	Va	削片	定義山系磨石			
126		2	V-014	Vb	百舌鳥谷台切石器	豊臣山田系磨石	下斜方少
2	V-015	Va	圓錐削片	定義山系磨石			
2	V-016	Va	削片	定義山系磨石		埋面	
129		2	V-017	Va	百舌鳥谷台切石器	豊臣山田系磨石	下斜斜丸
2	V-018	Va	圓錐削片	定義山系磨石			
2	V-019	Va	削片	定義山系磨石			
2	V-020	Va	圓錐削片	豊臣山田系磨石	合む石器の側面調整		
2	V-021	Va	削片	定義山系磨石	埋面		
2	V-022	Va	削片	定義山系磨石	埋面		
2	V-023	Va	圓錐削片	定義山系磨石			
2	V-024	Va	削片	定義山系磨石			
2	V-025	Va	削片	定義山系磨石			
131		2	V-026	Va	小野石刃	豊臣山田系磨石	上斜斜丸
2	V-027	Va	圓錐削片	定義山系磨石			
2	V-028	Va	削片	定義山系磨石			
2	V-029	Va	削片	定義山系磨石			
2	V-030	Va	削片	豊臣山田系磨石			
122		2	V-031	Va	百舌鳥谷台切石器	豊臣山田系磨石	
2	V-032	Va	百舌鳥谷台切石器	豊臣山田系磨石			
133		2	V-033	Va	削片	豊臣山田系磨石	大斜削片
130		2	V-034	Vb	小野石刃	豊臣山田系磨石	6と接合 上斜斜丸
129		2	V-035	Vb	小野石刃	豊臣山田系磨石	
2	V-036	Va	圓錐削片	豊臣山田系磨石			
2	V-037	Va	圓錐削片	豊臣山田系磨石			
2	V-038	Va	削片	豊臣山田系磨石			
2	V-039	Va	削片	豊臣山田系磨石			
2	V-040	Va	削片	定義山系磨石	埋面		
2	V-041	Va	削片	定義山系磨石	大別の埋面		
132		2	V-042	Va	小野石刃	豊臣山田系磨石	
2	V-043	Va	圓錐削片	豊臣山田系磨石		合む石器の側面調整	
2	V-044	Va	チップ	定義山系磨石			
126		2	V-045	Va	百舌鳥谷台切石器	豊臣山田系磨石	
2	V-046	Va	削片	定義山系磨石			
2	V-047	Va	削片	定義山系磨石			
127		2	V-048	Va	百舌鳥谷台切石器	豊臣山田系磨石	
2	V-049	Va	圓錐削片	定義山系磨石			
2	V-050	Va	圓錐削片	定義山系磨石			
2	V-051	Va	削片	定義山系磨石			
3	V-001	Vb	削片	三澤山崎山系磨石	埋面		
3	V-002	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-003	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-004	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-005	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-006	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-007	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-008	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-009	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-010	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
3	V-011	Vb	削片	三澤山崎山系磨石			
144		2	V-012	Va	圓錐削片	川端大崎山系磨石	
3	V-013	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-014	Va	チップ	川端大崎山系磨石			
3	V-015	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-016	Va	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-017	Va	チップ	川端大崎山系磨石			
3	V-018	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
140		2	V-019	Vb	削片	川端大崎山系磨石	
3	V-020	Vb	被長削片	川端大崎山系磨石			
3	V-021	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-022	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
141		2	V-023	Vb	被長削片	川端大崎山系磨石	
3	V-024	Vb	チップ	川端大崎山系磨石			
3	V-025	Vb	チップ	川端大崎山系磨石			
3	V-026	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-027	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-028	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-029	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-030	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-031	Vb	削片	川端大崎山系磨石			
3	V-032	Vb	チップ	川端大崎山系磨石			
3	V-033	Vb	削片	川端大崎山系磨石			